

CSR

REPORT 2023

Flexibility and Vitality
NISHIKAWA RUBBER CO.,LTD.



発行：西川ゴム工業株式会社

お問合せ先：総務部

〒733-8510

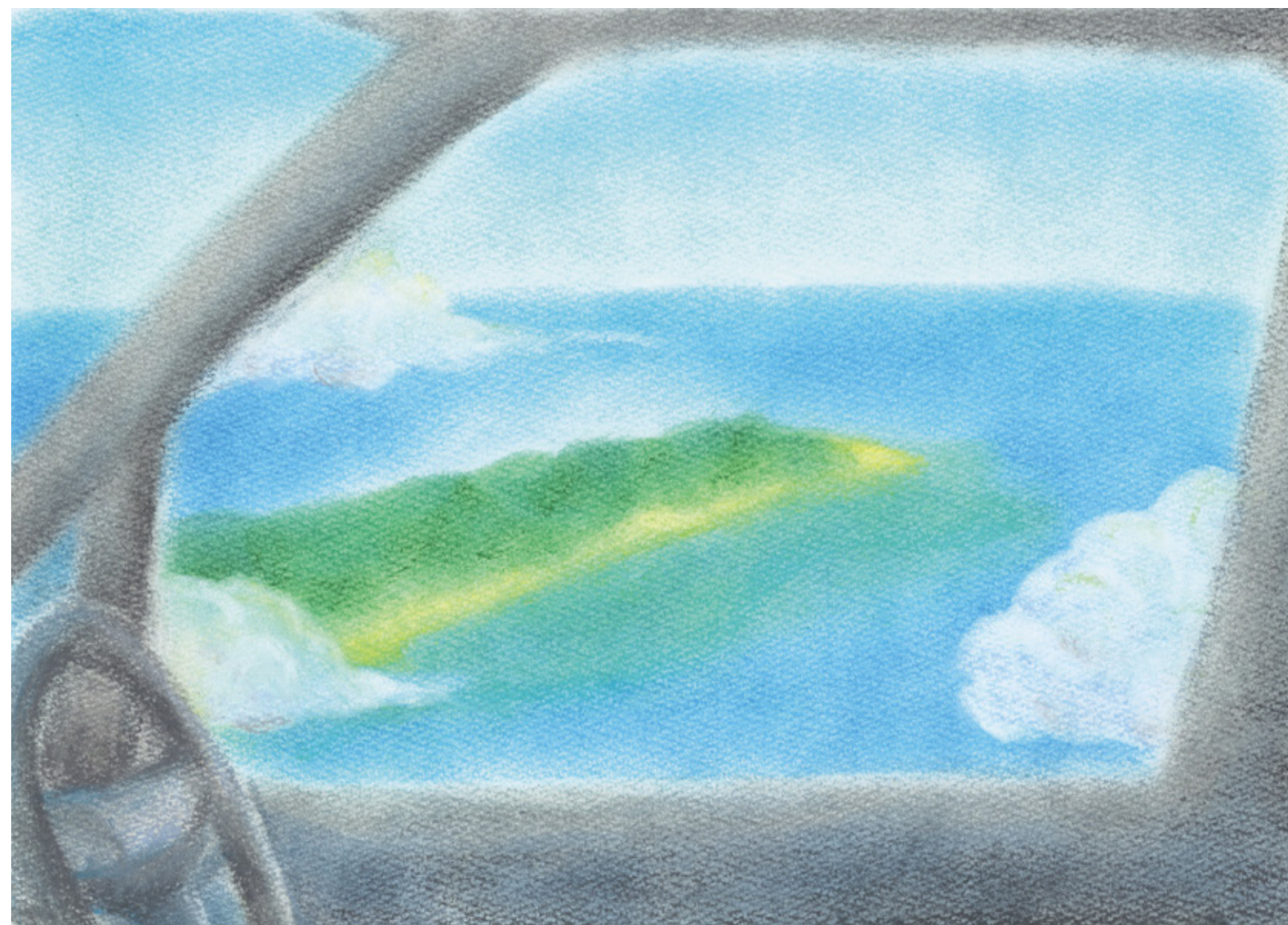
広島県広島市西区三篠町二丁目2番8号

TEL.082-237-9371 FAX.082-237-9361

<https://www.nishikawa-rbr.co.jp/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に基づき、
より多くの人に見やすく読みまちがえにくい
デザインの文字を採用しています。



西川ゴム工業株式会社

ゴムの可能性を、 のびのび考える。

昨日まで未来だったことが、
今日という現実になっている。

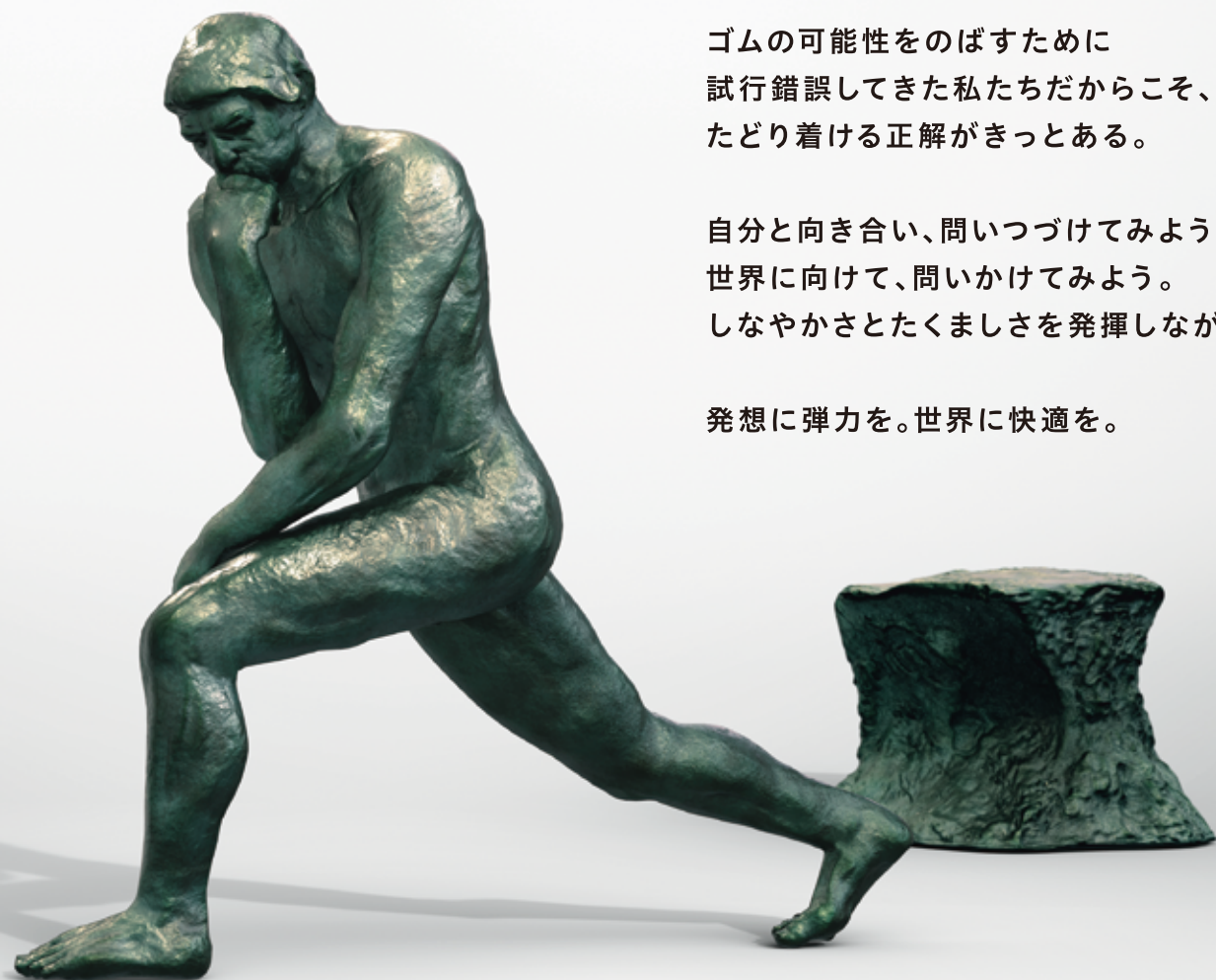
これまで常識だったことが、
これからの非常識になりつつある。

世界はますます多様化しながら、
持続可能なアイデアを求めている。

ゴムの可能性をのばすために
試行錯誤してきた私たちだからこそ、
たどり着ける正解がきっとある。

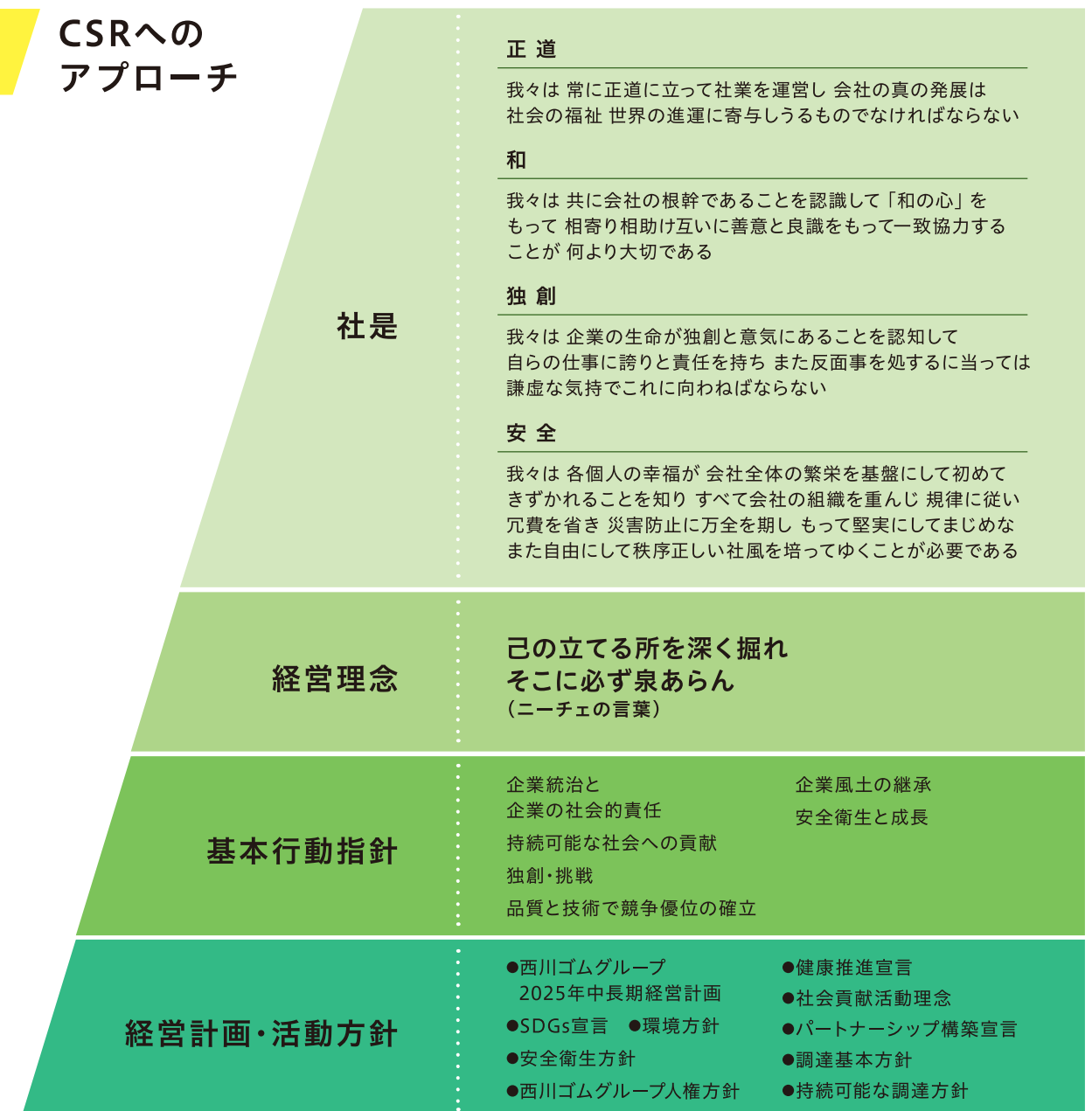
自分と向き合い、問いつづけてみよう。
世界に向けて、問いかけてみよう。
しなやかさとたくましさを発揮しながら。

発想に弾力を。世界に快適を。



弾力発想。

CSRへの アプローチ



Contents

02	CSRへのアプローチ
03	事業・製品紹介
05	TOP MESSAGE
09	価値創造プロセス
11	西川ゴムグループ 2025年中長期経営計画
13	特集① 低比重高発泡スポンジゴム技術
15	特集② センサーシール開発
17	環境
21	社会
25	ガバナンス
29	環境データ
33	人事データ
35	企業情報

リクルート
サイトは
こちらから!



表紙について



「車窓から見える思い出の島」 作者：かの

当社は、障がいのあ
るアーティストの社
会参加と経済的自
立に取り組む「パラ
リンアート」の活動
に協賛しています。

世界中のお客様に「こち

自動車関連製品

当社は、主力製品として自動車用ウェザーストリップを設計・開発・製造・販売しており、そのシェアは国内トップ(当社調査)を誇ります。これはドアまわりに組み付いている部品で、外からの雨・風・音の侵入を防ぎ、車室内のこち良さを提供しています。車のデザインに合わせてベストなシーリングをご提供できるよう、きめ細かい開発活動を展開しております。

nishikawaブランドを支える
テクノロジー



シーリング&フォームエンジニアリングが生み出す快適空間

ウェザーストリップは、車のドアとボディの間の限られた空間内に配置されてドア閉時の水密性や気密性を保ちます。当社は、車両構想段階からこの開発に着手し、豊富な技術に先進CAEも駆使して最適シーリング断面を構築。安心かつこち良い空間をつくり出しています。



DOOR OUTER SEAL

ドアアウターシール

ドアの外周に組み付くシール部品。中空部とリップ部でドアとボディ間をしっかりと封止して、雨・風・音が内部に入るのを防ぎます。また防いだ雨水を下側に流す役割も合わせ持っています。

DOOR INNER SEAL

ドアインナーシール

ドア開口部のボディ側に組み付く部品。ドアアウターシールに対して2次シール的に機能します。車室内で天井材などの端部カバーの役割も持つのでインテリア性も必要とされます。

GLASS RUN CHANNEL

ガラスランチャンネル

外からは見えにくいですが、ドアガラスの端部に位置し、ドアガラスが上下する際にレールのような役目をします。現在は熱可塑性の樹脂で製造することが多くなっています。



TRUNK LID

トランクリッド



トランク開口部のボディ側に組み付く部品。ドアインナーシールと類似していますが、設置箇所が搭乗空間ではないことから意匠性はさほど要求されず、止水とボディ端部保護が主な役割です。

良さ」をお届けしたい

住宅・土木・コスメ関連製品

当社は、グループ会社含めて住宅、土木からコスメの領域までシールと発泡(フォーム)にかかる製品づくりをしています。得意先からの要求事項に対して、材料・工法それぞれの適性を見極めて快適な暮らしに貢献する製品をご提供しています。

GASKET

目地ガasket

住宅の外壁パネルのすき間から侵入する水や塵を防ぐシール材が目地ガasket。従来からの湿式シーラント式よりも施工が容易で、かつ外観性も高いので複数のハウスメーカーで採用されています。



JOINT

下水道用可とう継手

当社グループの下水道用可とう継手は、日本下水道協会発行の「下水道施設の耐震対策指針と解説」で示されたレベル2地震動を想定した条件下での水密性をクリアし、土木の現場で活躍しています。

PUFF & SPONGE

パフ、スポンジ

自然由来の成分を発泡させた「こんにやくスポンジ」は、アトピーなどの敏感肌の方に大変愛用されています。この度、新たなバリエーションとしてシートタイプの「天女の羽衣」もラインアップに揃えました。また、広島レモンをモチーフにした「広島れもんパフ」もご好評いただいております。



nishikawaブランドを支える テクノロジー

自信の材料技術が織りなすベストシーリング

当社はこれまで、自動車用以外にも産業資材やコスメ関連製品など様々なスポンジゴムをつくり出してきました。その当社だからこそ成しえるベストシーリング。幅広い材料選定を基にした柔軟な発想の下で、住宅目地材の高耐候仕様や耐火仕様など一味違う製品づくりをしています。



環境への対応向上、 ステークホルダー、 地域社会への 貢献を！

2023年4月1日より、代表取締役社長を拝命いたしました小川秀樹でございます。当社CSR報告書を発行するにあたり一言、ご挨拶申し上げます。

当社は広島の地でスポンジゴムの製造会社としてスタートし、戦後のモータリゼーションの流れの中で自動車用部品製造を中心にこれまで事業を展開してまいりました。これはひとえに株主様、取引先様や社員を含む全てのステークホルダーの皆様の長きに渡るご支援の賜物であり、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

私は、当社にとってアジア初進出となるタイ、そして中国に長く赴任し、会社設立から事業運営を軌道に乗せるまで尽力した後、帰国後はインドネシアやメキシコの新たな拠点設立に携わるなど、西川ゴムでのキャリアの大半を海外拠点とともに歩んでまいりました。その中で、国籍の違いはあってもそこで区別はせず、「我々はみんな西川ゴムの人間なのだ」と団結力を持って物事にあたってまいりました。

自動車業界は今、モビリティ社会の創造を目指して急速に変化している最中ですが、当社は持てる専門知識や技術、ノウハウを活かし、既成概念や様々な枠組みにとらわれず、車両や輸送システムの進化を支え、快適性や安全性、効率性、環境への配慮を高めることで貢献していきたいと考えております。そして持続可能な未来のため、自動車産業の垣根を超えた、革新的なシール&フォームソリューションを生み出すことで新たな価値を提供する、業界No.1シェア企業へと成長できるよう継続的な努力を続けてまいります。

代表取締役社長

小川 秀樹



サステナビリティ経営を目指して

当社が事業展開する上での礎（いしずえ）は、前会長 西川一平が制定した社は「正道 和 独創 安全」であり、現在にいたるまで、当社の中で最も優先される規範として社員の中に根付いてきました。CSRやESG、そしてSDGsの考え方は社是の理念と親和性が高いため各社員へなじみ、経営戦略として組み込まれて当社の競争力強化につなげる活動へと展開されてきました。

具体的に申しますと、2021年6月に策定いたしました「2025年中期経営計画」のESG目標設定や、2022年3月に設立したESG推進委員会を中心としたESG推進体制の強化、そしてE分科会（環境対応部会）、S分科会（社会性向上部会）、G分科会（ガバナンス向上部会）での部門横断的な組織での活動がごございます。また、効率的かつ効果的な活動となるよう、分科会や各部門での取り組みを統括するサステナビリティ推進室を新設いたしました。

社会的課題の解決と 経済的価値の同時実現

また当社の主力事業に直結した取り組みとしては、軽量化と遮音性を両立させた性能向上シーリング技術の開発があります。基本的に質量（面密度）が大きいほど遮音性能は高くなる関係にありますので、トレードオフとなる軽量化と遮音性の両立は容易ではありませんが、EV化（電動化）によりエンジン音がなくなった事や、車が単なる移動手段としてではなく、乗っている方にこち良い空間を提供する場という役割にもクローズアップされるようになった今、車室内の静粛性向上に貢献することは当社の事業戦略の柱の一つと言えます。内容の詳細につきましては本紙の特集ページ「低比重高発泡スポンジゴム技術“**Hysoft**®”」をご参照いただければと思います。当社は日々、車室内の快適性・静粛性向上の

ため、無響音室に運び込んだ車両を用いて車のどこからどんな音が入り込んでいるのか、音の周波数に色を付けて可視化することでお客様と共有し、より良い製品開発につなげる活動をしています。

また、環境にやさしい素材の活用、ニーズに合わせた高性能コーティング剤の開発、リサイクル技術の開発や量産品への再利用範囲の拡大など、様々な角度から開発を進め、社会的課題の解決と経済的価値の同時実現を目指しております。

ひとりひとりに スポットライトが当たる組織へ

当社の「ひとづくり」における課題は複数ございますが、突き詰めて考えていくと結局は、社員の「全体を俯瞰してみる力」の強化がキーポイントになると認識しております。IT化やDXの導入は言うまでもありませんが、当社が取り組んでいるサステナビリティへの対応は、各担当業務のなかで部分最適化するだけでは、本質的な改善にはたどり着けません。各自の業務遂行能力を高めるのはもちろん、業務の範囲を今よりもっと広げて幅広い視点で考え、動けるように変革していく必要があるでしょう。

そこで、社員ひとりひとりが会社経営に参加している意識をもち、「西川ゴムの人間」として全員で経営体質を変革していこうという思いをこめて「全員経営」をスローガンとして掲げ、本部の再編を伴う大規模な組織変更を実施いたしました。これまでの6本部制から統括本部・10本部へ再編し、専門性の深掘り、課題解決の迅速化を図り、そして業務執行の要となる本部長を従来の取締役から執行役員に委譲することで、次世代幹部のマネジメントのレベルアップと活躍の場を広げています。

また先ほど述べたESG各分科会では、参加者間の議論や合意形成の場が多数ありますので、そこに若手社員も多く参加させています。自分の意見や活動によって会社に良い変化をもたらす

ことができたという成功体験を早くからさせることで、会社全体をより良くしたいというモチベーションを高める狙いがあります。一緒に活動しているベテラン社員も、自身にはなかった新しい手法や視点に触れることにより、お互いに良い影響を与えながら社員全体の能力の底上げができればと考えております。

地域社会との共生

当社は、海・山・川と豊富な自然に恵まれた広島県に生産拠点を構え、製造面においてもその恩恵を受けてここまで成長してまいりました。これからより一層、地域社会と協力しながら自然資源を守り、「地域社会との共生」という重要な課題に貢献していく事を目指しています。

新しい取り組みとして当社は、広島県が発行する環境債である「グリーンボンド」を購入し、広島県三原市に位置する中央森林公園の一部に「nishikawa みどりの森」と名付け、2024年度から森林保全活動を展開することとなりました。具体的な活動としては年に数回、社員およびその家族が集まり、森林散策、間伐、除伐、間伐材を利用した工作体験などを行う予定です。

海外子会社も同様に各国の指針に沿った環境保護活動を行っています。

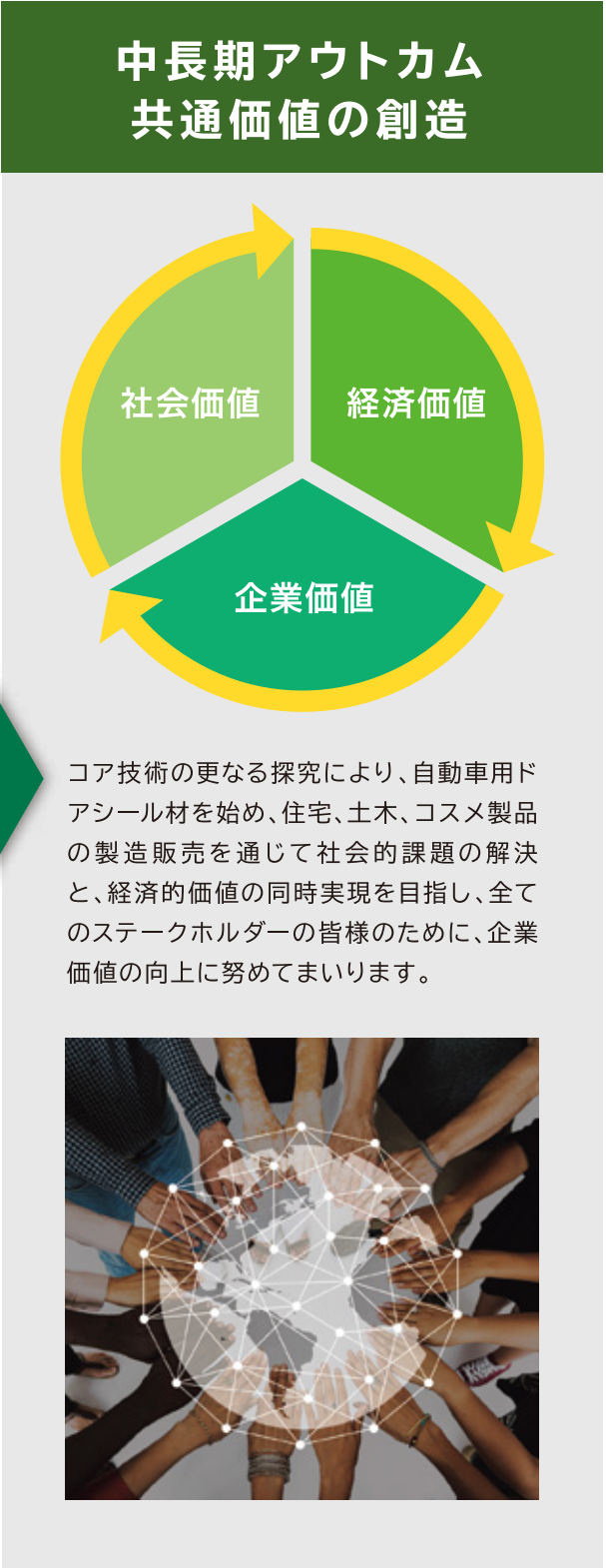
「弾力発想。」で 逆境を跳ね返す会社へ

最後に、当社が新たに設定したステートメント「弾力発想。」。これは従来のスローガン「しなやかでたくましい会社」を更に発展させたもので、製品材料であるゴムの特性としての“弾力”に、のびのびと自由な“発想”で急速な変化に対応し、逆境をも跳ね返すような会社でありたいという思いを重ねました。この「弾力発想。」を軸に、ステークホルダーの皆様へ様々な情報を発信してまいりますので、今後とも当社に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。





持続的な経営循環による企業価値の向上



あらゆる経営環境の変化を乗り越え、 更に「しなやかでたくましい会社」を 目指します

当社グループは2021年6月に「西川ゴムグループ 2025年中長期経営計画」を公表しました。
従来は10年単位で長期ビジョンを策定してまいりましたが、世界経済の不確実性や地政学リスクの
高まりを受け、一歩一歩確実に成長を続けるために中長期マイルストーンとしました。
2030年、持続可能な社会への貢献と永続する企業を目指して全員経営で進んでまいります。

2023年



2021年



体制づくりの 推進

「やめる・変える・続ける」 +「加える」の全体推進

DXや業務改革を進め、仕事効率を高め、
付加価値を加えていきます

具体的なSDGsの 取り組み

ESG推進体制をつくり、目標を設定し、
具体的な活動を開始します

全社員が収益意識を 高める取り組み

全社員が収益意識を高め、全員経営を
目指します

企業価値を高める取り組み

新技術・新素材・新製品の開発

競争優位な製品や環境にやさしい製品の開発を
行います



プロセスイノベーションの確立

工程から排出されるCO₂の削減技術や、革新的な
新工法と自動化の開発を目指します



非自動車新規事業の創出

事業ポートフォリオを生み出す新規事業の
創出を目指します



働き方改革の推進

仕事もプライベートも楽しめる会社にな
ります



ジェンダー平等の定着

男女を問わず全員が平等に活躍できる会社にな
ります



従業員ワーク・エンゲイジメントの向上

スキルや知識を高めて、仕事に向き合い、やり
がいと面白さを感じられる職場を目指します



2025年



目指す未来の姿

多様な社会課題の解決と、経済的価値の同時実現に向け、
全員で力を合わせて達成します。

1. 生産のDX化と
自動化の拡大

2. 技術・性能などあらゆる分野で
競争優位性を有している

3. 業界No.1シェア企業へ
成長している

4. 脱炭素社会に
大きく貢献している

経営目標値（2021年制定）

目 標 項 目	目 標 値
連結売上高	1,000億円
連結営業利益率	10%
連結総資本営業利益率（ROA）	10%
連結株主資本当期純利益率（ROE）	10%

ESG目標（2021年制定）

目 標 項 目		
主な実施事項		
●脱炭素企業への挑戦 西川ゴムグループ並びに国内協力企業 を含め、CO ₂ 原単位と排出量の削減に 取り組む	●産業廃棄物ゼロへの挑戦 環境汚染の原因となる産業廃棄物の 削減に取り組む 生産にともなうロス廃棄物を最小化する	●環境負荷物質管理 各国の環境法令を確実 に認知し、グループ全体 で準拠する
●従業員満足度および エンゲイジメントの向上 従業員がやりがいや働きがいを感じ、意欲を高め、 主体的かつ意欲的に業務に取り組むことができる企 業文化を定着させる	●企業統治と 企業の社会的責任の追求 企業統治と利害関係者への情報開示の充実を図り、 経済活動を通じて社会課題解決に寄与し、企業価値 の向上に取り組む	

さらなる飛躍へ・・・

2030年

「こち良さ」につなぐ技術開発①

低比重高発泡スポンジゴム技術

“Hysoft®”

「己の立てるところを深く掘れ そこに必ず泉あらん」。

このニーチェの言葉が当社の経営理念です。

当社は、自動車用ウェザーストリップをはじめとするシール&フォーム技術を深く掘り続けて

「快適で安心なこち良い空間づくり」を進めています。

今回、そこに寄与する当社ならではの「低比重高発泡スポンジゴム技術 **Hysoft®**」をご紹介します。

「こち良さ」を求めて フォーム(泡)からデザインする

この材料は、比重0.3以下という低比重高発泡の極めて柔らかいスポンジゴムで、当社の数多くの経験・ノウハウを盛り込んだ優れもの。シーリングにおける様々な要望に対して効果を発揮します。他のドアシールとは一味違う「山椒は小粒でピリリと辛い」、そんな存在感ある技術が **Hysoft®** です。

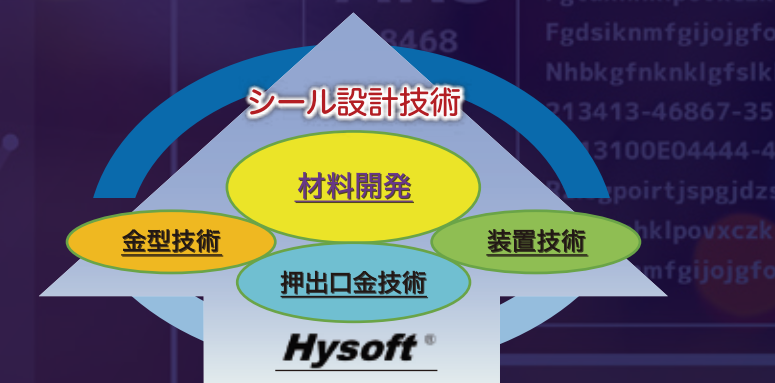
しかし、スポンジゴムが得意な当社と言えども、この技術を狙いどおりに実力発揮させるには、今までに経験のない多くのハードルを越える必要がありました。

まず、その開発の中核が「材料開発」。スポンジゴムには、その気泡がそれぞれ単独な「単泡」と、複数が繋がっている「連泡」があります。必要な機能に合わせて気泡の大きさや構造を定めていきます。いわば「気泡のデザイン」です。求める気泡の理想を描きながら、様々な試行錯誤を繰り返しました。それは単に配合レシピの検討だけに留まらず、ゴム混練の方法にまで立ち返っています。繊細かつ大胆な材料づくり、匠の技の世界です。そして特筆すべきは、一部に「天然由来材料」を活用していること。当社のカーボンニュートラルに対する配慮が表れています。

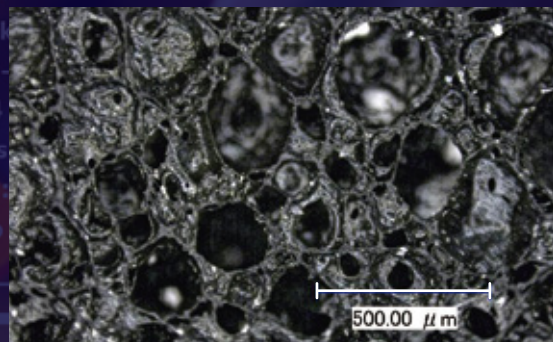
そして、この材料開発に密接に関わるのが「装置技術」。スポンジゴムの製造においては発泡と加硫のバランスを見極めてコントロールすることが不可欠で、そのために、押出速度&ワーク引取速度のバランス取りをはじめ、加硫方法の見直しまで様々な検討を重ねました。更に「押出口金技術」「金型技術」の2大ツーリング技術の後押しもこの技術を大きく前進させています。

そして、これら4つの技術を総合的に具現化していくのが「シール設計技術」。

低比重高発泡スポンジゴムが持つ多様なアドバンテージを、設計ノウハウ豊富なシールエンジニア達が、デザインに織り込んでいきます。このように「低比重高発泡スポンジゴム **Hysoft®**」は単なる材料を意味するのではなく、それを包括する技術、すなわち、こち良い空間づくりを追求する当社が自信を持ってご提供する「軽量化・防音・クルマづくり変革に対するベストシーリングソリューション」なのです。

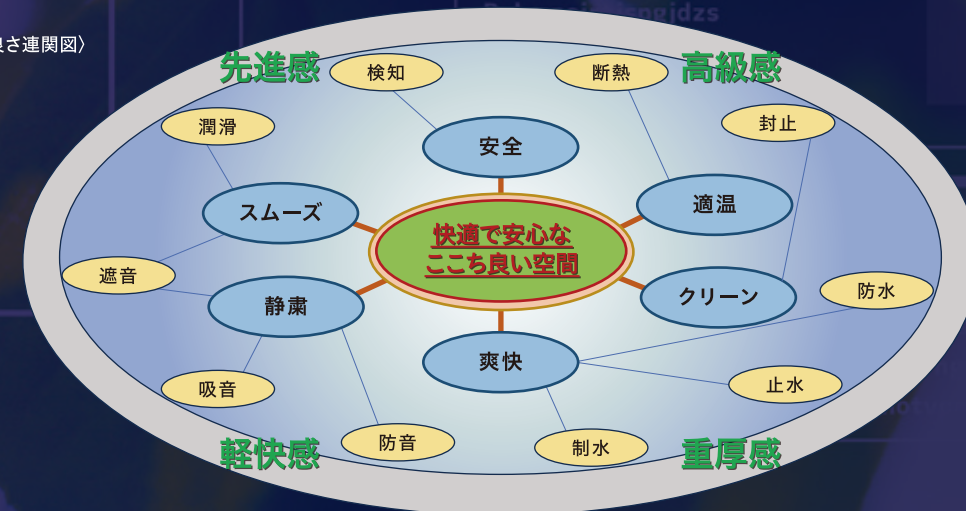


〈技術構成イメージ〉



〈断面拡大写真〉

〈こち良さ連関図〉



Hysoft® 強み技術のプロファイル

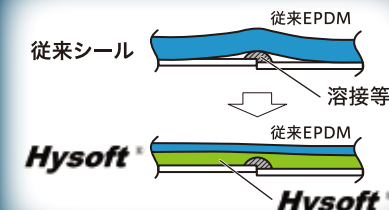
ここでその「シール設計技術」の横顔を振り返ってみます。

ここには次の3つのうれしさが挙げられます。

①高難度止水 ②気流止め ③トータル軽量化

①高難度止水

まず1つめは「高難度止水」。例えば段差部分をシールする必要がある場合などに使用されます。近年、自動車は様々な理由により板厚の異なる鉄板を溶接して一体化させる手法が用いられています。図1のようにこの溶接部をシールする際、通常のシール材だと溶接の隆起部分のキワが透いてそこから水が漏れる懸念があります。**Hysoft®**はその柔らかさとしなやかさで、段差部分も隙間なくシールでき、そば降る五月雨から突然の大雨時でも、しっかり防水することができます。



〈図1〉

②気流止め

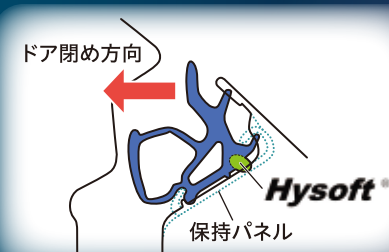
2つめは「気流止め」。車室内には色々な外気の通路が存在します。これらを塞ぐことは、静粛性の向上において必要なことです。図2は、複数のボディパネルが重なっている合わせ部分を塞いで外気の流れを止めて騒音を防ぐものです。このケースでは、従来ブチルシーラントと呼ばれる粘着性シーラーが使われていましたが、車両組立工程での汚れ対策の要望も相まって、現在ある得意先においては、指定の標準技術にもなっています。



〈図2〉

③トータル軽量化

3つめは「トータル軽量化」。**Hysoft®**自体も低比重で軽量化の一助となりますが、この材料の持つ止水力が周囲の他部品に波及し、自動車全体としての軽量化を引き出すことができるというものです。図3のケースでは、本材料をルーフ部ウェザーストリップの基底角部に配置しており、これにより破線で示すドア側の保持パネルを廃止しても車室内への水の侵入を防止できます。小さな力が大きな喜びにつながる有効な技術と言えます。



〈図3〉

時代が求めるマルチパーパス だから **Hysoft®**

今、自動車業界はカーボンニュートラルの声を受けて電動化が進行しています。それは、脱炭素への大変化のみならず、モビリティ自体の可能性を拡げる多様性の動向も影響しています。様々な目的や使われ方が謳われ、それに従って自動車の形やドアのあり方も大きく変化していくであろう予想の下、当社の **Hysoft®** の可能性は今後も更に広がっていくことでしょう。